



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア・イラン：イラン外務次官のサウジ訪問

8月26日、イランのアブドゥルラヒヤーン外務次官がジッダを訪問し、サ우드・ファイサル外相と会談した。イランの外務次官によるサウジ訪問は、ロウハーニー政権発足以降、最もハイレベルなイラン高官によるサウジ訪問である。会談では、パレスチナ情勢やイラク情勢などの地域情勢について協議され、地域の安定と安全保障を確立する重要性を強調した。会談終了後、アブドゥルラヒヤーン外務次官は、「肯定的かつ建設的な会談であった」と述べた。

評価

地域における両国の対立関係は、ロウハーニー政権発足後、改善の兆しを見せていたが、6月にイラク国内で「イスラーム国」が台頭して以降、イラク情勢の趨勢を巡って再度対立を深めていた（関係改善の兆しについては[「サウジアラビア：イラン外相の招待」『中東かわら版』No. 25 \(2014年5月14日\)](#)、イラク情勢を巡る関係の悪化については[「サウジアラビア：イラク情勢への対応・米国との協力の表明」『中東かわら版』No. 67 \(2014年6月19日\)](#)を参照)。しかしながら、サウジアラビア側のテロ対策の進展、イラン側がマリーキー以外のイラク首相候補者を容認するなど、両国の紛争の種となっていた問題について解決が図られてきた。

イラン外務次官のサウジ訪問は、かねてより期待されていた外相訪問に比べると一段レベルの下がるものであったが、二国間関係の改善を象徴する出来事として捉えられよう。地域情勢の対応を巡って両国の利害が一致すれば、今後、実務的な協力関係の構築に発展する可能性もある。

(村上研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799